

奈良本辰也

周防大島町
(1913～2001)

奈良本辰也は、大正二年大島町（現・周防大島町）生まれの歴史学者。戦後、立命館大学で教鞭をとり、旺盛な執筆活動を開始、新進気鋭の歴史学者としての評価を得る。また、岩波新書として刊行の『吉田松陰』は名著として版を重ね、歴史学者としてのオピニオン・リーダーの一人となる。『京都の庭』『女人哀歓』『京都百景』など、文化史的随想も、学術的知識、美的認識、人間的情感などが混然一体となって新しい魅力を切り開き、小説の分野においても、郷里長州の長井雅楽を描く『もう一つの維新』や『小説・葉隠』、『洛陽燃ゆ』上・下などを執筆した。

（清永唯夫）

【主な著作】

- 評伝 『吉田松陰』（岩波新書、昭和26年）
随想 『京都百景』（淡交新社、昭和39年）
小説 『洛陽燃ゆ』上・下（講談社、昭和53年）